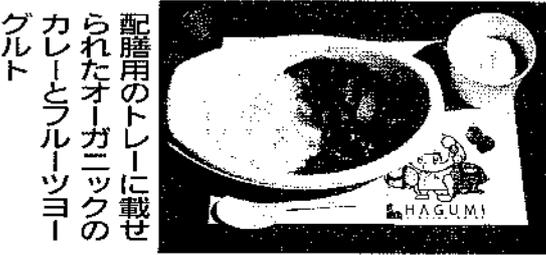


元気で躍進 地域経済

学童で初の「こども食堂」

はぐみが
明和町で
オーガニックのチキンカレー



松阪市広陽町に松阪営の「こども食堂」を開いた。日頃きりクラブに業所を置く学校給食事業の(株)はぐみ(本社)四日市市、四十崎智仁代表取締役社長)が28日正午から、多気郡明和町内の放課後児童クラブ「きりクラブ」4カ所でオーガニック給食配膳するはぐみの社員と給食を受け取る児童。明和町斎宮の斎宮きりクラブで

通う児童を中心に、4カ所合わせて約110人がアレゲンフリーでオーガニック野菜入りのチキンカレーとオーガニックフルーツ入りのフルーツヨーグルトに舌鼓を打った。

同社は(株)トモ(本社)四日市市の学校給食事業部を前身に、昨年4月に設立。四十崎社長(47)は会社が出来た時から、こども食堂事業の構想があった。そんな中、社員から声が上がって今回の取り組みが実現しました」といきさつを語る。

栄養士で営業部部長の福島美希さん(46)が提案した。福島さんは同町立上御糸小学校PTA会長で、長女が上御糸きりクラブを利用して、「実体験として、学童(放課後児童クラブ)へ預ける時、お弁当を作るのが大変で、イベント的にお昼ご飯を提供できればいいかなと思って」と話す。

同町教育委員会に相談し、教委の後援を受ける形で実現の運びとなった。きりクラブは一般社団法人めいほう育成会(本部)同町金剛坂、関

岡豊理事長が斎宮、上御糸、明和、大淀、下御糸の町立5小学校に隣接して開設しており、今回の「こども食堂」は下御糸の子供たちが上御糸に合流する形で4カ所で開かれた。

メニューはチキンカレーとフルーツヨーグルトで、容器代として100円を集めた。町立明和中学校の調理室を借り受け、約40人の社員が朝から調理場や各きりクラブで準備を行い、正午ごろから屋外テントで配膳となった。

同社は2月に、地域商社「三十三地域創生(株)松阪市京町」が販売する「松阪かるた」を市内の公民館に寄贈したが、その際に三十三地域創生の人が社協の生活困窮者自立支援事業のことを知り、寄贈を思い立ったという。

同社は2月に、地域商社「三十三地域創生(株)松阪市京町」が販売する「松阪かるた」を市内の公民館に寄贈したが、その際に三十三地域創生の人が社協の生活困窮者自立支援事業のことを知り、寄贈を思い立ったという。

同社は2月に、地域商社「三十三地域創生(株)松阪市京町」が販売する「松阪かるた」を市内の公民館に寄贈したが、その際に三十三地域創生の人が社協の生活困窮者自立支援事業のことを知り、寄贈を思い立ったという。

同社は2月に、地域商社「三十三地域創生(株)松阪市京町」が販売する「松阪かるた」を市内の公民館に寄贈したが、その際に三十三地域創生の人が社協の生活困窮者自立支援事業のことを知り、寄贈を思い立ったという。

人参ジュースなど寄贈

社協の生活困窮者支援へ



松阪市星谷町の農業法人・ファームステージ(株)がこのほど、松阪市殿町に本所を置く社会福祉法人松阪市社会福祉協議会(中森弘美会長)に、

中森会長(左)にジュースを手渡す角谷社長(真ん中)とコックさん(殿町の市福祉会館で)

角谷社長(24)と同社のグエン・ティ・ビッチ・ゴックさん(32)が殿町の同社協本所のある市福祉会館を訪れ、中森会長にジュースなどを手渡した。

角谷さんは「私たちが作ったジュースが誰かの役に立っているのはうれし」と言い、中森会長から感謝状が手渡された。ジュースなどは、市内約10カ所の子ども食堂に届けたり、生活困窮者同社協窓口へ相談に訪れる人らに提供したりするという。

角谷さんは「私たちが作ったジュースが誰かの役に立っているのはうれし」と言い、中森会長から感謝状が手渡された。ジュースなどは、市内約10カ所の子ども食堂に届けたり、生活困窮者同社協窓口へ相談に訪れる人らに提供したりするという。